

危機  
管理課

## 消火手順の正確さを競う

令和5年度広島県消防ポンプ操法競技大会



放水を行う指揮者の竹岡さん

11月25日、広島県消防学校で令和5年度広島県消防ポンプ操法競技大会が開催され、本市を代表し、東城方面隊第6分団が出場しました。

この競技は小型ポンプ操法に関する技術を競うもので、当日は県内16市町から19チームが出場し、消防用機械器具の正確な取り扱いと機敏な操作を披露しました。

同分団の選手は、この日のために訓練を重ね、その成果を発揮し、当日は見事県内4位の成績を収めました。

指揮者（リーダー）を務めた竹岡正浩さんは「メンバー全員で頑張り、過去最高の結果を収めることができた。訓練を指導してくれた皆さんに恩返しが出来て良かった」と話しました。

高齢者  
福祉課

## 住み慣れた地域で暮らすために

令和5年度庄原市在宅医療・介護についての市民研修会

12月2日、庄原市ふれあいセンターで、令和5年度庄原市在宅医療・介護についての市民研修会を開催し、120人が参加しました。

第一部は、庄原市医師会常任理事の戸谷誠二さんが「この街で住みつづけるために」と題して、本人の意向を尊重した意思決定、人生の最終段階における医療の合意形成について講演を行いました。

第二部は、パネルディスカッションが行われ、社会福祉法人相扶会寿園・相扶園次長の荒木和美さんの進行により、庄原市社会福祉協議会会長の上田正之さんと庄原赤十字訪問看護ステーション管理者の安部弘美さん、東寿園居宅介護支援事業所管理者の水永芳香さんがパネリストとして登壇しました。パネルディスカッションでは、最期まで住み慣れた地域で暮らしたいという思いや、自分の「生き方」「逝き方」について家族や身近な人と共有することが大切であることを確認しました。また、医療・介護・福祉の専門職は、利用者や家族に寄り添い、その思いを尊重した支援に取り組んでいることを共有しました。

参加者は「最期まで人との関わりを大切に、心豊かに人生を過ごしたい」「庄原市で暮らして良かったと思える社会づくりに向けて一人一人が考えていくことが重要」と話しました。



戸谷さんの講演



荒木さんが進行を務める



パネリストの皆さん

東城支所

## 絵本の世界を楽しむ

第26回絵本原画展「山本孝の世界」



絵本の読み聞かせをする山本さん

11月15日～29日、東城まちなか交流施設えびすで、第26回絵本原画展を開催しました。

「山本孝の世界」と題し、絵本作家の山本孝さんが描いた絵本「おぼけのきもだめし」の原画18点を展示しました。期間中は、子どもから大人まで多くの人が来場し、貴重な原画を鑑賞しました。

また、これに併せ11月21日に東城保育所で山本さんの講演会を開催しました。講演では、絵本が出来るまでの過程や、下描きのスケッチなどの資料を紹介したほか、ワークショップとして、山本さんのアドバイスの下、園児が思い思いのおぼけのお面を作成しました。

参加者は「スケッチの段階でも迫力が伝わってきて素晴らしかった。講演を通して山本さんの絵本に対する思いが伝わってきた」と話しました。